



『ScanSnap』で実現する訴訟業務の効率化とクオリティの更なる向上 牧野総合法律事務所 牧野二郎 様

「牧野総合法律事務所」（東京都千代田区丸の内）の牧野二郎さんは日本で最も早くインターネットの法律相談を開始した、自他ともに認める“IT系弁護士”。有名企業から個人まで多くのクライアントを抱え、民事訴訟の法廷にも頻繁に立つ牧野さんは今、『ScanSnap』の導入で訴訟に関わる業務の効率化を果たし、サービスの質の向上も実現しつつある。



牧野総合法律事務所 弁護士法人
牧野二郎 様

弁護士。1995年にインターネットに出会い、いち早く「Internet Lawyer 法律相談室」を開設。現在はIT企業の法務を中心に、民事全般に携わる。財団法人インターネット協会評議委員、文書の電磁的保存等に関する検討委員会委員などを歴任。『Google 問題の核心』『内部統制時代の文書・情報マネジメント』など多数の著書がある。

準備書面・証拠・判決文——『ScanSnap』は訴訟に関わるすべての書類に有効

判決文の素早い共有に「iX500」が大活躍

牧野さんはオフィスに「iX500」と「SV600」、2台の『ScanSnap』を導入し、各々の特長を活かして訴訟に関わる業務を効率化している。「iX500」が活躍するのは、主にスピードが求められる局面。たとえば民事訴訟で出た「判決文」の複製だ。

「勝ち取った判決文は、読み込んだら大至急、何十部も複製しなければなりません。企業の法務部をはじめとするクライアントにお渡ししたり、執行の準備を始めたりする必要があるからです。このときに『iX500』があると、時には何十ページにもわたる判決文をあっという間にデータ化できるので、それをEメールで送れば関係各所と即時の共有が可能です」

判決文の体裁はステープルで一綴りにされた冊子状。注意深く針を外して単票の集合体にし、「iX500」で一気にスキャンする。



判決文はステープル留めされた紙の厚い束。針を外して「iX500」で一気にスキャンする。

「受け取った判決文は執行する場合以外は自由に使えるので、スキャン後に元通りに綴じておけば問題はありません。判決文は『今すぐに共有したいもの』ですから、最近はいつもこの方法ですね。コピーをとって郵送するのはスピードと効率が比喩物になりませんから」

大量の名刺もスピーディーにスキャンして管理する

牧野さんは「iX500」を名刺の管理にも活用している。弁護士という職業柄、手元には大量の名刺が集まる。これを一気にスキャンし、添付の名刺管理ソフト「CardMinder」で整理するのだ。

「これはものすごく便利です。僕の場合は講演も多いので一日に20枚くらいの名刺をいただくこともありますし、委員会や研究会で挨拶するだけでもかなりの枚数の名刺が集まります。これまで名刺は箱に

入れておくだけで活用できていませんでしたが、『iX500』と『CardMinder』があればスキャンするだけで住所録まで作れるわけですから、もう便利のひと言ですよ」



多数の名刺を一度にスキャンして「CardMinder」で管理する。

『判例時報』のスキュンで準備書面の作成を効率化

訴訟の核心に関わる業務でも『ScanSnap』は活躍する。裁判所に提出する「準備書面」の作成だ。準備書面は口頭弁論に先立って、自らの申立ての基礎となる主張や相手方の請求に対する反論などを記したもので、裁判の行方を左右する書面だ。これを作成するには過去の判例を遡ることが欠かせないため、大量にある『判例時報』の合本から裁判例の必要な箇所をコピーして手元に置く必要が生じる。ここで力を発揮するのがオーバーヘッドスキャナ「SV600」だ。



厚い『判例時報』の合本も「SV600」なら楽にスキャンできる。厚みによって生じる歪みの補正も可能だ。

「分厚い合本だとコピーをとるのも大変です。索引を見て何冊もの合本を集め、それぞれコピー範囲を指定して職員に頼むわけですが、重い合本を伏せて、押しつけて、またひっくり返してめくって……を何十回も繰り返すのは、特に女性の職員にとって過酷な作業です。綴じ部分が黒く写ってしまうこともありますし、一式を揃えるのに2時間を要するといったこともしばしばです。ところが『SV600』があれば基本的にめくるだけでスキャンできますし、歪みも補正できるので、労力も時間もコピーに比べて圧倒的に軽減できます。これは驚くほどの改善です」

「作業時間を圧縮できれば、その分を裁判の戦い方の議論などに充てることができます。つまり我々のサービスもより濃密になり、クライアントの利益も大きくなる可能性があるわけです」

手描きの図や写真で「勝てる準備書面」を作る

準備書面の作成では、牧野さんならではの『ScanSnap』活用法もある。伝統的に文章だけで書かれることの多い準備書面に、『ScanSnap』を用いて解説用の図や写真を挿入するのだ。

「民事訴訟の準備書面には建物や設備の説明が頻繁に出てきますが、これが文章だけでは非常にわかりにくい。ところが解説用に図や写真などを差し挟むだけで、一転してわかりやすくなるんです。そうすることで裁判官の理解が深まるので、僕は昔からできるだけわかりやすい準備書面を作るよう心がけています」

解説用に用意するのは、牧野さん自身が手描きすることもあるという図面、写真、訴訟に関わる資料としての専門誌や新聞など。これらを

状態やサイズに応じて「iX500」または「SV600」でスキャンし、データを文章と統合すれば明解な準備書面が出来上がる。

「『ScanSnap』なら図はもちろん、プリントした写真や新聞などもコピーよりはるかにきれいにデータ化できます。裁判は料理のようなもの。わかりにくい、ごった煮のようなストーリーを提示しても裁判官の心を動かすことはできません。どれだけ美しく明解なものを提示できるか、そこが大切なんです」

クライアントの信頼を高める準備書面の複製

準備書面ができたら冊子状に綴じて正本と副本を作り、裁判所に提出する。このときクライアントは、綴じる前ではなく完成した正本の写しを望むことが多い。ここでも「SV600」が活躍する。

「正本のページをめくりながら『SV600』でスキャンします。朱肉の色まで複製できます」

実物そのままの美しいスキャンデータを受け取ったクライアントは満足し、事務所の信頼も高まる。また、牧野さんの手元にも裁判所やクライアントに渡した書類の控えをデータで残すことができる。

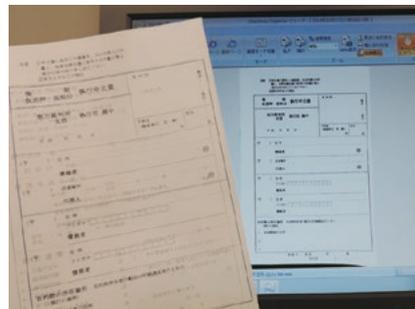
証拠となる古い書類も「SV600」でスキャン

判決文と準備書面に続いて、「証拠」の複製にも『ScanSnap』は有効だ。証拠原本に添えて裁判所に提出する写しをとる際、原本を傷めずA3サイズまでスキャンできる「SV600」はとても便利だ。

「青焼きの図面で比較的大きいものや、できるだけ触りたくない古い書類の複製が楽にできます。準備書面同様、証拠の写しも美しくて原本に忠実であるほど裁判官に好印象を与えます」

半透明で薄く、裏書きしやすいグラシン紙が使われていた時代の古い証拠書類も、裏書き軽減機能を備える「SV600」なら美しく、また大切な証拠を傷めることなく複製できる。

このように、準備書面から判決文に至る、弁護士事務所の中心的業務のすべてにわたって『ScanSnap』は牧野さんや職員の方々を助け、効率化を実現している。それとともに牧野総合法律事務所のサービスの質も、よりいっそう高まっていくことだろう。



グラシン紙の書式をコピーしたもの(左)と「SV600」でスキャンしたもの(右)。右はほとんど裏書きしていない。



小さな領収書はコピー機だと風圧で飛んでしまうが、「SV600」なら見た通りにきちんとスキャンできる。

【著作権について】 著作権の対象となっている新聞、雑誌、書籍等の著作物は、個人的または家庭内、その他これらに準ずる限られた範囲内で使用することを目的とする場合など、著作権法で定められた例外を除き、権利者に無断でスキャンすることは法律で禁じられています。なお業務利用では、著作権者の許諾が必要となることがありますので、著作権法、およびご利用になる企業や団体が定める利用規則等に従って利用して頂くようお願いいたします。

販売店

【お問い合わせ先】 株式会社PFU イメージング サービス&サポートセンター

TEL: 050-3786-0811

<受付時間> 月~金曜日 10時~12時、13時~17時(当社休業日除く)

E-mail: scanners@ml.ricoh.com

ScanSnap に関する詳細はこちら

<https://www.pfu.ricoh.com/scansnap/>